



# 魂の故郷～本当のアイヌ文化を残したい～ 知里 真志保

## 【指導事例 1】

- 1 主 題 「郷土の文化を受け継ぐ」〔郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度〕
- 2 ねらい

郷土を愛し、積極的・主体的に関わり、郷土のために自分ができることは何かを考え、郷土の発展のために寄与しようとする心情を育む。

## 3 教材について（教材の生かし方や人物像）

本教材は、アイヌ民族の両親の間に生まれ、アイヌ出身で初めて北海道大学の教授となった知里真志保が、文字をもたなかったアイヌ民族の言語について、生涯をかけて研究に取り組んだ生き方に触れることを通して、郷土の発展に寄与しようとする心情を育むことをねらいとしています。前半では、中学生の真志保がアイヌ民族の昔話を和訳し、金田一京助が編集する雑誌に採用された様子などが示されています。後半では、本当のアイヌ文化を残そうと、樺太や北海道でアイヌ語の研究を続ける真志保の姿について触れています。指導に当たっては、これまでのアイヌ民族に関する文献の誤りを正し、本当のアイヌ文化を後世に残したいと願いながら研究を続けた真志保の思いについて多面的・多角的に話し合い、郷土や地域を愛し、積極的・主体的に関わり、郷土のために自分ができることは何かについて深く考えさせることが重要です。

## 4 展開例—①「正しいアイヌ語を残そうとする真志保の姿を通して、郷土の伝統と文化を尊重し、郷土を愛することについて考える展開」

	●学習活動 ○主な発問 ◎中心的な発問 ・予想される子どもの反応	・指導上の留意点（■評価）
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 北海道のアイヌ語に由来する地名について考える。</li> <li>○ 北海道の地名の中で、アイヌ語に由来するものを知っていますか               <ul style="list-style-type: none"> <li>・札幌（サッポロペツ：乾いた大きな川）、室蘭（モルエラニ：小さい川）、知床岬（シルエットク：大地の先）等。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ねらいとする道徳的価値への方向付けをする。</li> <li>・「きたものがたり（小学校版）『知里幸恵』」を紹介し、自然の恵みとともに生活してきたアイヌの人たちの生き方に触れる。</li> </ul>
展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 教材「魂の故郷～本当のアイヌ文化を残したい～」を読み、話し合う。</li> <li>○ 日常生活ではアイヌ語に触れる機会の少なかった真志保は、どのような思いで、「山の刀禰、浜の刀禰物語」を書いたのでしょうか。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の先生やお母さんに勧められたから。</li> <li>・お姉さんが打ち込んでいたことに興味があったから。</li> </ul> </li> <li>○ 悩み抜いた末、樺太に渡ろうと、彼をかりたてたものは何だったのでしょうか。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・師匠である金田一先生を越えたかったから。</li> <li>・本当に正しいアイヌ語を後世に残したかったから。</li> </ul> </li> <li>◎ 「私は論より証拠を重んずる」「研究より前にまず正確な調査が行わなければならない」という精神を貫き研究を続けた真志保について、あなたはどのように思いますか。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・正しいアイヌ語を残すことを第一に考えているところがすごいところだと思う。</li> <li>・本当のアイヌ文化を残したいという思いが伝わってくる。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・明確な決意をもっていない真志保の気持ちを話し合い、人間理解を深めさせる。</li> <li>・本当に正しいアイヌ語を残したいという真志保の気持ちについて、多面的・多角的に話し合い、価値理解・他者理解を深めさせる。</li> </ul>
終末	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 人間としての生き方について考える。</li> <li>○ 「魂の故郷」とはどのような意味だと思えますか。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の祖先が大切にしてきた場所であり、自分も大切にしているところ。</li> <li>・心が本当に落ち着くところ。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・郷土に関わりについて、自分の人間としての生き方を振り返り、自己理解を深めさせる。</li> <li>■ 郷土の文化の大切さについて、自分との関わりで、考えを深めている。</li> </ul>
終末	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「ふるさとの発展のために」（「私たちの道徳」P200～201上段）を読み、「私のふるさと」の空欄に自分の考えを記述する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学習を振り返りながら、郷土のために自分ができることを考えようとする心情が育まれるようにする。</li> </ul>

## 【指導事例 2】

1 主 題 「郷土に対する認識を深め、郷土を愛しその発展に努める」〔郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度〕

2 ねらい

郷土の伝統や文化を受け継ぎ残してきた先人について理解し、尊敬の念を深め、地域社会の一員として地域を愛し、その発展に努めようとする態度を育てる。

3 展開例—②「知里真志保の生き方を通して地域の伝統や文化を受け継ぐことについて考える展開」

4 主な学習活動

(1) 真志保は、どのような人物でしょうか。

- ・アイヌに対する差別にくじけず努力を重ねていた。
- ・アイヌ語の研究に情熱をもって取り組んだ。
- ・北海道を愛し、本当のアイヌ文化にこだわった。

(2) 真志保はどのような思いで、「俺は、世界中でただ一人、内側からアイヌ語をやるのだ。」と語ったのでしょうか。

- ・本当に正しいアイヌ文化を後世に残したい。
- ・アイヌ民族としての自覚と誇りをもち続けたい。
- ・これは自分にしかできない。

(3) 真志保の生き方から、今後、どの様な生き方をしたいと感じましたか。

- ・知里真志保のように、他の土地に移り住んでも自分の故郷を大切にしたい。
- ・知里真志保のように、自分の故郷について調べてみたい。
- ・知里真志保のように、自分の郷土の文化を守りたい。

### 活用場面例（道徳科以外での活用事例）

#### ■ 社会科

公民的分野の私たちと現代社会の学習において、本教材を活用することを通して、現代社会における文化の意義や影響を理解するとともに、我が国の文化の継承と創造の意義に気付くことができるようにする。

#### ■ 総合的な学習の時間

職業や自己の将来に関する探究課題を設定した学習活動において、本教材を活用し、真志保が伝統や文化に愛着や誇りをもち、困難を乗り越えて、アイヌ文化の研究に尽力した思いや願いについて考える活動を通して、自らの考えや適性を生かして自己の将来を切り拓いていこうとする意欲を育てることができるようにする。

#### ■ 特別活動（学級活動）

学級活動の主体的な進路の選択や将来設計に関する学習において、本教材を活用し、真志保のアイヌ文化の研究にかけた生き方に触れることを通して、自己のよさや個性、身の回りの環境をよさについて考え、進路や社会に関する適切な情報を収集・整理し、将来を見通した生き方を選択・形成しようとする意欲を高めることができるようにする。

#### ■ 家庭や地域との連携

学級通信等において、本教材を活用した学習の様子を家庭に伝えるとともに、郷土を愛する想いについて話し合ってもらおうよう依頼し、生徒が郷土に対する認識を深め、自分なりに郷土のためにできることに取り組んでいこうとする意欲を高めることができるようにする。

